

学校コード F113310104134

注3

設置年度 令和 4年度

計画の区分： 大学院の設置

注1

認可

注2

ヤマザキ動物看護大学大学院 動物看護学研究科 動物看護学専攻

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人ヤマザキ学園

令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名

シムキョクチョウオオサワ タダヒロ
事務局長 大澤 忠廣

電話番号

042-653-0901

（夜間）

042-653-0901

e-mail

kyoumuka@yamazaki.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

動物看護学研究科

＜動物看護学専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	14
5. 教員組織の状況	15
6. 附帯事項等に対する履行状況等	22
7. その他全般的事項	25

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人ヤマザキ学園

(2) 大学名

ヤマザキ動物看護大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒192-0364

東京都八王子市南大沢4-7-2

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ヤマザキ カオル) 山崎 薫 (平成6年6月)		
学長	(ヤマザキ カオル) 山崎 薫 (平成25年4月)		
学部長	該当なし		
研究科長	(ウメムラ タカシ) 梅村 隆志 (令和3年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)
令和4年度に報告する内容 → (4)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください（作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」を確認してください）。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和4年度までの5年間）ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
動物看護学研究科 動物看護学専攻 修士（動物看護学）	農学関係	2 年	5 人	— 年次 人	10 人	新規入学者を募集中	動物看護学部

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	5 (—) [—]	— (—) [—]	5 (—) [—]	— (—) [—]	1.00 倍	—	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	5 (—) [—]	— (—) [—]	5 (—) [—]	— (—) [—]			
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	5 (—) [—]	— (—) [—]	5 (—) [—]	— (—) [—]			
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	5 (—) [—]	— (—) [—]	5 (—) [—]	— (—) [—]			
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	5 (—) [—]	— (—) [—]	5 (—) [—]	— (—) [—]			
入学定員超過率 B/A	—		—		—		1.00		1.00				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和4年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考	
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
1年次	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	5 [—] (—)	— [—] (—)	5 [—] (—)	— [—] (—)		
2年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	5 [—] (—)	— [—] (—)		
3年次			/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
4年次					/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
計			— [—] (—)	— [—] (—)			— [—] (—)	— [—] (—)	5 [—] (—)	10 [—] (—)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	— 人	— 人	平成30年度	— 人	— 人	
令和元年度	— 人	— 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
令和2年度	— 人	— 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	— 人	— 人	
令和3年度	5 人	0 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	— 人	— 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
令和4年度	10 人	0 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	— 人	— 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

- (注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{5} = \boxed{0} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{10} = \boxed{0} \%$$

- (注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<動物看護学研究科 動物看護学専攻>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	生命倫理学特論	1前	1			1	1					1
	動物愛護・福祉特論	1前	2									1
	動物看護学Ⅰ	1前	2			2						1
	動物看護学Ⅱ	1前		2		2						2
	動物看護学演習	1前		1		3						2
	動物人間関係学特論	1前	2			4	1					2
	動物人間関係学演習	1前		1		3	1					2
	ヒトと動物の環境科学特論	1前	2			2						2
	動物看護教育特論	1後	1			2						2
	研究方法論	1前	1			8	1					7
	小計(10科目)	-		11	4	0	10	2	0	0	0	7
専門科目	動物看護学領域	応用動物看護学Ⅰ	1後		2		2					
		応用動物看護学演習Ⅰ	2前		1		2					
		応用動物看護学Ⅱ	1後		2		2					
		応用動物看護学演習Ⅱ	2前		1		2					
	小計(4科目)	-		0	6	0	4	0	0	0	0	0
	動物人間関係学領域	応用動物人間関係学Ⅰ	1後		2		1					
		応用動物人間関係学演習Ⅰ	2前		1		1					
		応用動物人間関係学Ⅱ	1後		2		3	1				
		応用動物人間関係学演習Ⅱ	2前		1		3	1				
	小計(4科目)	-		0	6	0	4	1	0	0	0	0
インターンシップ	インターンシップ	2通		1		1						
	小計(1科目)	-		0	1	0	1	0	0	0	0	
研特別	特別研究	1後~2通	10			8	1					
	小計(1科目)	-	10	0	0	8	1	0	0	0	0	
合計(20科目)			-	21	17	0	11	2	0	0	0	7
卒業要件及び履修方法												
基礎科目においては、必修11単位に加え、選択4単位の中から2単位以上修得する。 専門科目においては、動物看護学領域・動物人間関係学領域のそれぞれから2単位以上修得の上、専門科目(選択科目)全体で9単位以上修得する。 以上の基礎科目と専門科目に加え、特別研究10単位を修得し、修了要件は32単位以上とする。 特別研究については、研究指導を受けた上で、修士論文を作成し、論文審査に合格することにより単位を修得する。												

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	生命倫理学特論	1前	1			1	1					1
	動物愛護・福祉特論	1前	2									1
	動物看護学Ⅰ	1前	2			2						1
	動物看護学Ⅱ	1前		2		2						2
	動物看護学演習	1前		1		3						2
	動物人間関係学特論	1前	2			4	1					2
	動物人間関係学演習	1前		1		3	1					2
	ヒトと動物の環境科学特論	1前	2			2						2
	動物看護教育特論	1後	1			2						2
	研究方法論	1前	1			8	1					7
	小計(10科目)	-		11	4	0	10	2	0	0	0	7
専門科目	動物看護学領域	応用動物看護学Ⅰ	1後		2		2					
		応用動物看護学演習Ⅰ	2前		1		2					
		応用動物看護学Ⅱ	1後		2		2					
		応用動物看護学演習Ⅱ	2前		1		2					
	小計(4科目)	-		0	6	0	4	0	0	0	0	0
	動物人間関係学領域	応用動物人間関係学Ⅰ	1後		2		1					
		応用動物人間関係学演習Ⅰ	2前		1		1					
		応用動物人間関係学Ⅱ	1後		2		3	1				
		応用動物人間関係学演習Ⅱ	2前		1		3	1				
	小計(4科目)	-		0	6	0	4	1	0	0	0	0
インターンシップ	インターンシップ	2通		1		1						
	小計(1科目)	-		0	1	0	1	0	0	0	0	
研特別	特別研究	1後~2通	10			8	1					
	小計(1科目)	-	10	0	0	8	1	0	0	0	0	
合計(20科目)			-	21	17	0	11	2	0	0	0	7
卒業要件及び履修方法												
基礎科目においては、必修11単位に加え、選択4単位の中から2単位以上修得する。 専門科目においては、動物看護学領域・動物人間関係学領域のそれぞれから2単位以上修得の上、専門科目(選択科目)全体で9単位以上修得する。 以上の基礎科目と専門科目に加え、特別研究10単位を修得し、修了要件は32単位以上とする。 特別研究については、研究指導を受けた上で、修士論文を作成し、論文審査に合格することにより単位を修得する。												

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	生命倫理学特論	1前	1			1	1					1
	動物愛護・福祉特論	1前	2									1
	動物看護学Ⅰ	1前	2			2						1
	動物看護学Ⅱ	1前		2		2						2
	動物看護学演習	1前		1		3						
	動物人間関係学特論	1前	2			4	1					2
	動物人間関係学演習	1前		1		3	1					
	ヒトと動物の環境科学特論	1前	2			2						
	動物看護教育特論	1後	1			2						
	研究方法論	1前	1			8	1					
	小計(10科目)	-	11	4	0	10	2	0	0	0	0	7
専門科目	動物看護学領域	1後		2		2						
	動物看護学領域	2前		1		2						
	動物看護学領域	1後		2		2						
	動物看護学領域	2前		1		2						
	小計(4科目)	-	0	6	0	4	0	0	0	0	0	0
	動物人間関係学領域	1後		2		1						
	動物人間関係学領域	2前		1		1						
	動物人間関係学領域	1後		2		3	1					
	動物人間関係学領域	2前		1		3	1					
	小計(4科目)	-	0	6	0	4	1	0	0	0	0	0
インターンシップ	2通		1		1							
小計(1科目)	-	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	
研特別	特別研究	1後~2通	10			8	1					
	小計(1科目)	-	10	0	0	8	1	0	0	0	0	0
合計(20科目)		-	21	17	0	11	2	0	0	0	0	7

卒業要件及び履修方法

基礎科目においては、必修11単位に加え、選択4単位の中から2単位以上修得する。
 専門科目においては、動物看護学領域・動物人間関係学領域のそれぞれから2単位以上修得の上、専門科目(選択科目)全体で9単位以上修得する。
 以上の基礎科目と専門科目に加え、特別研究10単位を修得し、修了要件は32単位以上とする。
 特別研究については、研究指導を受けた上で、修士論文を作成し、論文審査に合格することにより単位を修得する。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【令和3年度】

特になし。

【令和4年度】

特になし。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
8 科目	12 科目	0 科目	20 科目	8 科目 [0]	12 科目 [0]	0 科目 [0]	20 科目 [0]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{20} = \boxed{}0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体		
	校舎敷地	0㎡	17,664.16㎡	0㎡	17,664.16㎡			
	運動場用地	0㎡	1,402.75㎡	0㎡	1,402.75㎡			
	小 計	0㎡	19,066.91㎡	0㎡	19,066.91㎡			
	そ の 他	0㎡	1,088.21㎡	0㎡	1,088.21㎡			
	合 計	0㎡	20,155.12㎡	0㎡	20,155.12㎡			
(2) 校舎	専 用	126.39㎡	10,638.24	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 体育館を含んでいた面積としていたため、体育館面積を除いた面積とした。(3)		
	(126.39㎡)	(11,196.64㎡)	10,638.24 (11,196.64㎡)	(0㎡)	10,764.63 (11323.03㎡)			
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	14室	8室	13室	2室 (補助職員0人)	1室 (補助職員0人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		大学全体 記載ミス(3)		
	動物看護学研究科動物看護学専攻			28 27 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体 図書・設備の購入のため(4)
	動物看護学研究科 動物看護学専攻	27,141 [3,382] 26,517 [3,282]	64 [21] 61 [21]	22 [20] 16 [14]	650 644	10,264 10,106	249 238	
		27,141 [3,382] (26,474 [3,256])	64 [21] (58 [18])	22 [20] (16 [14])	650 (644)	10,264 (10,106)	249 (238)	
	計	27,141 [3,382] 26,517 [3,282]	64 [21] 61 [21]	22 [20] 16 [14]	650 644	10,264 10,106	249 238	
(6) 図書館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		30,228 29,028 書架の新規購入(4)	
	292.10㎡		40					
(7) 体育館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				面積の記載ミス(3)	
	558.40 532.00㎡		-					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	300千円	300千円	図書購入費	3,000千円	1,000千円	0千円
		共同研究費等	4,000千円	4,000千円	設備購入費	10,000千円	0千円	0千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,100千円	950千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え直し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	ヤマザキ動物看護大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	定員変更(13)
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
動物看護学部	4	193	-	733	学士(動物看護学)	1.21	1.21	-	平成22	-	
動物看護学科	4	113	-	573	学士(動物看護学)	1.23	1.28	令和4	平成22	東京都八王子市南大沢4-7-2	
動物人間関係学科	4	80	-	160	学士(動物看護学)	1.12	1.12	-	令和3	同上	
大学全体	-	193	-	733	-	-	-	-	-	-	

大学の名称	ヤマザキ動物看護専門職短期大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
動物トータルケア学科	3	80	-	240	動物看護短期大学士(専門職)	1.24	1.25	-	平成31	東京都渋谷区松濤2-3-10	
大学全体	-	80	-	240	-	-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 - ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<動物看護学研究科 動物看護学専攻>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (学長)	山崎 薫 (70) <令和3年4月> 博士(学術)
		動物人間関係学特論※ 動物看護教育特論※
専	教授	奥野 卓司 (70) <令和3年4月> 博士(学術)
		動物人間関係学特論※ 動物人間関係学演習※ 研究方法論※ 応用動物人間関係学Ⅱ※ 応用動物人間関係学演習Ⅱ※ 特別研究
専	教授	岡崎 登志夫 (70) <令和3年4月> 博士(学術)
		動物看護学Ⅱ※ 研究方法論※ 応用動物看護学Ⅱ※ 応用動物看護学演習Ⅱ※ 特別研究
専	教授	櫻井 富士朗 (70) <令和3年4月> 博士(学術)
		動物看護学Ⅱ※ 動物看護学演習※ 研究方法論※ 応用動物看護学Ⅱ※ 応用動物看護学演習Ⅱ※
専	教授	小黑(岡野) 美枝子 (69) <令和3年4月> 理学博士
		動物人間関係学特論※ 動物人間関係学演習※ 研究方法論※ 応用動物人間関係学Ⅱ※ 応用動物人間関係学演習Ⅱ※ 特別研究
専	教授	富田 幸子 (68) <令和3年4月> 医学博士
		特別研究

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (学長)	山崎 薫 (70) <令和3年4月> 博士(学術)
		動物人間関係学特論※ 動物看護教育特論※
専	教授	奥野 卓司 (70) <令和3年4月> 博士(学術)
		動物人間関係学特論※ 動物人間関係学演習※ 研究方法論※ 応用動物人間関係学Ⅱ※ 応用動物人間関係学演習Ⅱ※ 特別研究
専	教授	岡崎 登志夫 (70) <令和3年4月> 博士(学術)
		動物看護学Ⅱ※ 研究方法論※ 応用動物看護学Ⅱ※ 応用動物看護学演習Ⅱ※ 特別研究
専	教授	櫻井 富士朗 (70) <令和3年4月> 博士(学術)
		動物看護学Ⅱ※ 動物看護学演習※ 研究方法論※ 応用動物看護学Ⅱ※ 応用動物看護学演習Ⅱ※
専	教授	小黑(岡野) 美枝子 (69) <令和3年4月> 理学博士
		動物人間関係学特論※ 動物人間関係学演習※ 研究方法論※ 応用動物人間関係学Ⅱ※ 応用動物人間関係学演習Ⅱ※ 特別研究
専	教授	富田 幸子 (68) <令和3年4月> 医学博士
		特別研究

【令和4年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (学長)	山崎 薫 (71) <令和3年4月> 博士(学術)
		動物人間関係学特論※ 動物看護教育特論※
専	教授	奥野 卓司 (71) <令和3年4月> 博士(学術)
		動物人間関係学特論※ 動物人間関係学演習※ 研究方法論※ 応用動物人間関係学Ⅱ※ 応用動物人間関係学演習Ⅱ※ 特別研究
専	教授	岡崎 登志夫 (71) <令和3年4月> 博士(学術)
		動物看護学Ⅱ※ 研究方法論※ 応用動物看護学Ⅱ※ 応用動物看護学演習Ⅱ※ 特別研究
専	教授	櫻井 富士朗 (71) <令和3年4月> 博士(学術)
		動物看護学Ⅱ※ 動物看護学演習※ 研究方法論※ 応用動物看護学Ⅱ※ 応用動物看護学演習Ⅱ※
専	教授	小黑(岡野) 美枝子 (70) <令和3年4月> 理学博士
		動物人間関係学特論※ 動物人間関係学演習※ 研究方法論※ 応用動物人間関係学Ⅱ※ 応用動物人間関係学演習Ⅱ※ 特別研究
専	教授	富田 幸子 (69) <令和3年4月> 医学博士
		特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	植田 富貴子 (66) <令和3年4月> 農学博士
		ヒトと動物の環境科学特論※ 動物看護教育特論※ 研究方法論※ 応用動物人間関係学Ⅰ 応用動物人間関係学演習Ⅰ 特別研究
専	教授 (研究科長)	梅村 隆志 (64) <令和3年4月> 獣医学博士
		動物看護学Ⅰ※ 動物看護学演習※ 研究方法論※ 応用動物看護学Ⅰ※ 応用動物看護学演習Ⅰ※ インターンシップ 特別研究
専	教授	今村 伸一郎 (61) <令和3年4月> 博士(獣医学)
		動物看護学Ⅰ※ 動物看護学演習※ 研究方法論※ 応用動物看護学Ⅰ※ 応用動物看護学演習Ⅰ※ 特別研究
専	教授	新島 典子 (53) <令和3年4月> 修士(社会学)
		生命倫理学特論※ 動物人間関係学特論※ 動物人間関係学演習※ 研究方法論※ 応用動物人間関係学Ⅱ※ 応用動物人間関係学演習Ⅱ※ 特別研究
専	教授	石川(筒井) 牧子 (45) <令和3年4月> 博士(理学)
		ヒトと動物の環境科学特論※
専	准教授	加藤 理絵 (48) <令和3年4月> 博士(教育学)
		生命倫理学特論※
専	准教授	茂木 千恵 (44) <令和3年4月> 博士(獣医学)
		動物人間関係学特論※ 動物人間関係学演習※ 研究方法論※ 応用動物人間関係学Ⅱ※ 応用動物人間関係学演習Ⅱ※ 特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	植田 富貴子 (66) <令和3年4月> 農学博士
		ヒトと動物の環境科学特論※ 動物看護教育特論※ 研究方法論※ 応用動物人間関係学Ⅰ 応用動物人間関係学演習Ⅰ 特別研究
専	教授 (研究科長)	梅村 隆志 (64) <令和3年4月> 獣医学博士
		動物看護学Ⅰ※ 動物看護学演習※ 研究方法論※ 応用動物看護学Ⅰ※ 応用動物看護学演習Ⅰ※ インターンシップ 特別研究
専	教授	今村 伸一郎 (61) <令和3年4月> 博士(獣医学)
		動物看護学Ⅰ※ 動物看護学演習※ 研究方法論※ 応用動物看護学Ⅰ※ 応用動物看護学演習Ⅰ※ 特別研究
専	教授	新島 典子 (53) <令和3年4月> 修士(社会学)
		生命倫理学特論※ 動物人間関係学特論※ 動物人間関係学演習※ 研究方法論※ 応用動物人間関係学Ⅱ※ 応用動物人間関係学演習Ⅱ※ 特別研究
専	教授	石川(筒井) 牧子 (45) <令和3年4月> 博士(理学)
		ヒトと動物の環境科学特論※
専	准教授	加藤 理絵 (49) <令和3年4月> 博士(教育学)
		生命倫理学特論※
専	准教授	茂木 千恵 (44) <令和3年4月> 博士(獣医学)
		動物人間関係学特論※ 動物人間関係学演習※ 研究方法論※ 応用動物人間関係学Ⅱ※ 応用動物人間関係学演習Ⅱ※ 特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	植田 富貴子 (67) <令和3年4月> 農学博士
		ヒトと動物の環境科学特論※ 動物看護教育特論※ 研究方法論※ 応用動物人間関係学Ⅰ 応用動物人間関係学演習Ⅰ 特別研究
専	教授 (研究科長)	梅村 隆志 (65) <令和3年4月> 獣医学博士
		動物看護学Ⅰ※ 動物看護学演習※ 研究方法論※ 応用動物看護学Ⅰ※ 応用動物看護学演習Ⅰ※ インターンシップ 特別研究
専	教授	今村 伸一郎 (62) <令和3年4月> 博士(獣医学)
		動物看護学Ⅰ※ 動物看護学演習※ 研究方法論※ 応用動物看護学Ⅰ※ 応用動物看護学演習Ⅰ※ 特別研究
専	教授	新島 典子 (54) <令和3年4月> 修士(社会学)
		生命倫理学特論※ 動物人間関係学特論※ 動物人間関係学演習※ 研究方法論※ 応用動物人間関係学Ⅱ※ 応用動物人間関係学演習Ⅱ※ 特別研究
専	教授	石川(筒井) 牧子 (46) <令和3年4月> 博士(理学)
		ヒトと動物の環境科学特論※
専	准教授	加藤 理絵 (50) <令和3年4月> 博士(教育学)
		生命倫理学特論※
専	准教授	茂木 千恵 (45) <令和3年4月> 博士(獣医学)
		動物人間関係学特論※ 動物人間関係学演習※ 研究方法論※ 応用動物人間関係学Ⅱ※ 応用動物人間関係学演習Ⅱ※ 特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	山北 宣久 (80) <令和3年4月> 神学修士
		生命倫理学特論※
兼任	講師	菅野 多恵 (54) <令和3年4月> Master of Science in Applied Animal Behaviour and Animal Welfare (英国)
		動物愛護・福祉特論
兼任	講師	近藤 昌弘 (58) <令和3年4月> 博士(獣医学)
		動物看護学Ⅰ※
兼任	講師	大島 誠之助 (77) <令和3年4月> 獣医学博士
		動物看護学Ⅱ※
兼任	講師	小嶋 佳彦 (66) <令和3年4月> 獣医学士
		動物看護学Ⅱ※
兼任	講師	早田 由貴子 (71) <令和3年4月> 獣医学士
		動物人間関係学特論※
兼任	講師	小嶋 篤史 (47) <令和3年4月> 獣医学士
		動物人間関係学特論※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	山北 宣久 (80) <令和3年4月> 神学修士
		生命倫理学特論※
兼任	講師	菅野 多恵 (54) <令和3年4月> Master of Science in Applied Animal Behaviour and Animal Welfare (英国)
		動物愛護・福祉特論
兼任	講師	近藤 昌弘 (58) <令和3年4月> 博士(獣医学)
		動物看護学Ⅰ※
兼任	講師	大島 誠之助 (77) <令和3年4月> 獣医学博士
		動物看護学Ⅱ※
兼任	講師	小嶋 佳彦 (66) <令和3年4月> 獣医学士
		動物看護学Ⅱ※
兼任	講師	早田 由貴子 (71) <令和3年4月> 獣医学士
		動物人間関係学特論※
兼任	講師	小嶋 篤史 (47) <令和3年4月> 獣医学士
		動物人間関係学特論※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	山北 宣久 (81) <令和3年4月> 神学修士
		生命倫理学特論※
兼任	講師	菅野 多恵 (55) <令和3年4月> Master of Science in Applied Animal Behaviour and Animal Welfare (英国)
		動物愛護・福祉特論
兼任	講師	近藤 昌弘 (59) <令和3年4月> 博士(獣医学)
		動物看護学Ⅰ※
兼任	講師	大島 誠之助 (77) <令和3年4月> 獣医学博士
		動物看護学Ⅱ※
兼任	講師	小嶋 佳彦 (67) <令和3年4月> 獣医学士
		動物看護学Ⅱ※
兼任	講師	早田 由貴子 (72) <令和3年4月> 獣医学士
		動物人間関係学特論※
兼任	講師	小嶋 篤史 (48) <令和3年4月> 獣医学士
		動物人間関係学特論※

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) -②担当教員表に関する変更内容

【令和3年度】

特になし

【令和4年度】

特になし

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
4	3	2
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計（A）	助手（A'）	教授	准教授	講師	助教	計（B）	助手（B'）
11	2	0	0	13	0	11	2	0	0	13	0
(11)	(2)	(0)	(0)	(13)	(0)						
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/		
9	0	4				9	0	4			
(9)	(0)	(4)	/			(9)	(0)	(4)	/		
[0]	[0]	[0]				[0]	[0]	[0]			
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計（C）	助手（C'）	教授	准教授	講師	助教	計（D）	助手（D'）
11	2	0	0	13	0	11	2	0	0	13	0
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/		
9	0	4				9	0	4			
[0]	[0]	[0]	/			[0]	[0]	[0]	/		
[0]	[0]	[0]				[0]	[0]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員うち、定年を延長して採用する教員数
70	5	5
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{13}{13} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{5}{13} = \boxed{38.46} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C'）}}{\text{設置時の計画（A'）}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合計（D）				後任補充状況の集計（E）						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計（F）				後任補充状況の集計（G）						
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）						
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{13} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附帯事項等		履行状況		今後の実施計画
<p>認可時 (令和2年10月)</p>	<p>1. 設置の趣旨・目的が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の理論及び応用を教授研究するという大学院の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>令和2年度末（開設時）までに大学院生共同研究室を整備した。また、1号館1階の実験研究室、実験実習室を大学院専用に用途変更し、大学院生が専用に利用可能な施設・設備を充実させている。なお、本研究科で新規に教育研究用機器・備品及び図書等を購入・設置したことから、教育・研究活動を一層向上させる。 (令和3（2021）年度)</p> <p>令和4年5月1日までに、図書についても、専門図書、学術雑誌等を新たに整備し、教育研究活動を一層向上させる環境を整えた。 (令和4（2022）年度)</p>	<p>履行済</p>	<p>令和2年度末（開設時）までに大学院生共同研究室を整備し、また、大学院生が専用に利用可能な施設・設備を整備し、充実させた。 今後は、図書についても令和3（2021）年度末までに、専門図書、学術雑誌等を新たに整備し、教育研究活動を一層向上させていく。 (令和3（2021）年度)</p>
<p>認可時 (令和2年10月)</p>	<p>2. 本研究科は新たな国家資格である「愛玩動物看護師」を念頭に置いた研究科であることから、充実した募集活動により確実な学生確保に努めること。 (助言事項)</p>	<p>改善意見</p>	<p>大学院認可日が令和2（2020）年10月下旬となり、開設までに日数が無い状況ではあったが、主軸となる本学学部生及び本学園卒業生への積極的な学生募集を行い、定員数を確保することができた。 令和4（2022）年度以降の学生募集活動は、令和3（2021）年度の時よりも早い時期から、設置計画に示した定員充足に向けての取り組みを行い、確実な学生確保に努めている。 (令和3（2021）年度)</p> <p>令和4（2022）年度の学生募集活動は、令和3（2021）年度の時よりも早い時期から、設置計画に示した定員充足に向けて、学生募集計画を明示し、主軸となる本学学部生（4年次）の学生確保に努めた。この結果、令和4（2022）年度入学生においても定員を充足した。 (令和4（2022）年度)</p>	<p>履行済</p>	<p>令和4（2022）年度以降の学生確保の方策は、早い時期に学生募集計画を明示し、主軸となる本学の学部生（4年次）の学生確保に努め、大学3年次生を対象に修士課程進学説明会を開催し、修士課程進学の意識を高め、継続的な学生確保の足がかりとする。また、オープンキャンパスを実施するほか、大学祭における特設ブース設置や、ホームページによる大学院情報の発信など積極的な学生募集活動を行う。 また、社会人入学者に対しては、長期履修制度等、個々の状況に応じて丁寧にサポートを行う。 (令和3（2021）年度)</p>

<p>認可時</p> <p>(令和2年10月)</p>	<p>3. 高度動物治療においてインターンシップ等の実践活動は非常に重要であることから、科目内容の更なる充実を図ることに加え、動物病院等の高度動物治療を扱う分野への進路を希望している学生に対しては、当該科目を確実に履修させるよう留意すること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>2年次配当科目である「インターンシップ」は、高度動物治療の実践活動として非常に重要であることから、インターンシップ実施先である「ER八王子動物高度医療救命救急センター」と科目内容を充実すべく協議を行っている。また、入学時のオリエンテーションにおいて、高度動物治療を扱う分野への進路を希望する者は、インターンシップを履修するように指導している。 (令和3(2021)年度)</p> <p>インターンシップ実施先である「ER八王子動物高度医療救命救急センター」と科目内容を充実すべく検討を重ね、併せて、2年次対象オリエンテーションにおいて、高度動物治療を扱う分野への進路を希望する者は、インターンシップを履修するように指導した。 (令和4(2022)年度)</p>	<p>履行済</p>	<p>引き続き、インターンシップ実施先である「ER八王子動物高度医療救命救急センター」と科目内容を充実すべく協議を行っていく。また、高度動物治療を扱う分野への進路を希望する者に、インターンシップを履修するよう指導を行う。 (令和3(2021)年度)</p>
<p>認可時</p> <p>(令和2年10月)</p>	<p>4. 研究指導において、副研究指導教員は必要に応じて配置するとされているが、より充実した研究指導や公平・公正な研究指導のため、必ず配置すること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>ご指摘を踏まえ、大学院生個々に副研究指導教員を配置した。 (令和3(2021)年度)</p>	<p>履行済</p>	
<p>認可時</p> <p>(令和2年10月)</p>	<p>5. 本研究科の教育課程は専門性が高い内容を多く取り扱うことから、専門性を十分留意の上、計画的な若手教員の採用に努めること。 (助言事項)</p>	<p>改善意見</p>	<p>教育課程の専門性を踏まえ、完成年度以降に向けて適正な人事計画を立て実行する。 (令和3(2021)年度)</p> <p>令和4(2022)年度も引き続き、教育課程の専門性を踏まえ、令和5(2023)年度以降に向けて適正な人事計画を立て実行する。 (令和4(2022)年度)</p>	<p>履行中</p>	<p>定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、大学院生の教育に支障をきたさないよう、研究科委員会で協議の上、適正な人事計画を立て若手教員の採用を図る。 (令和3(2021)年度)</p> <p>今後も引き続き、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、大学院生に対する教育や研究の体制に支障をきたさないよう、研究科委員会で協議の上、適正な人事計画を立て若手教員の採用を図る。 なお、若手教員育成にあたり、本大学院の教員資格審査の基準に照らし、教育指導経験及び研究業績の面から、当研究科の教育研究上の目的及び人材の養成に資する教員へと育成していく計画である。 (令和4(2022)年度)</p>

<p>認可時</p> <p>(令和2年10月)</p>	<p>6. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について着実に実施すること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、大学院生の教育に支障をきたさないよう、将来構想に基づき、人事計画を立て実行する。 (令和3(2021)年度)</p> <p>令和4(2022)年度も引き続き、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、大学院生の教育に支障をきたさないよう、将来構想に基づき、人事計画を立て実行する。 (令和4(2022)年度)</p>	<p>履行中</p>	<p>定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、大学院生の教育に支障をきたさないよう、将来構想に基づき、研究科委員会で協議の上、人事計画を立て実行する。 (令和3(2021)年度)</p> <p>今後も引き続き、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、大学院生の教育に支障をきたさないよう、将来構想に基づき、研究科委員会で協議の上、人事計画を立て実行する。高い年齢層に著しく偏った年齢構成にならない教員組織の実現を図っていくこととする。 なお、研究科の教員組織編成の将来構想の的確な実現に当たっては、若手教員の採用育成の計画遂行とともに本大学院の専攻分野を支える教員の充実と学問的発展に留意しながら推進していくこととする。 (令和4(2022)年度)</p>
-----------------------------	---	-------------	--	------------	--

- (注)
- ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<動物看護学研究科 動物看護学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

<p>本学では、教員の質的向上の推進及び教育方法の改善等を見直し、本学の教育・研究の充実を一層図るため、FD委員会を設置している。以下のとおり、「ヤマザキ動物看護大学FD委員会規程」(平成22年4月1日制定)をもとに、説明する。</p> <p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>(趣旨)</p> <p>第1条 ヤマザキ動物看護大学学則第4条及びヤマザキ動物看護大学大学院学則第4条の規定に基づき、ヤマザキ動物看護大学(以下「本学」という。)及びヤマザキ動物看護大学大学院(以下「本大学院」という。)の教員は、動物愛護の精神と豊かな人間性を基盤として、広い知識と専門の学芸を深く教育・研究することを任務とし、質的向上の推進及び教育方法の改善等を見直し、本学の教育・研究の充実を一層図るため、FD(Faculty Development)委員会(以下「委員会」という。)規程を定める。</p> <p>(構成)</p> <p>第3条 委員会は、次の委員をもって、構成する。</p> <p>(1) 研究科長</p> <p>(2) 学部長</p> <p>(3) 専任教員の中から学長が指名する者</p> <p>(任期)</p> <p>第4条 委員の任期は、役職者はその在職期間とする。その他の委員は2年とし、再任を妨げない。</p> <p>2 委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。</p> <p>(委員長)</p> <p>第5条 委員会に委員長を置き、学部長とする。</p> <p>2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。</p> <p>3 委員会に、委員長が指名する副委員長を置く。</p> <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)</p> <p>FD委員会は、①研究科長、②学部長、③専任教員の中から学長が指名する者から構成されている。委員長は学部長とし、議長となる。</p> <p>令和3(2021)年度は、3名の教員が委員となり、委員会が2回(令和3年4月30日及び令和3年10月4日)開催された。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>(審議事項)</p> <p>第2条 委員会は、前条の目的に資するため、次の事項を審議する。</p> <p>(1) 教員の質的向上の推進について</p> <p>(2) 教員の授業改善、見直しについて</p> <p>(3) 教員の教育技術の向上について</p> <p>(4) 学生による授業評価等について</p> <p>(5) 教員の学会等を始め、学内外諸団体等の研修の参加等について</p> <p>(6) 教員の研究支援について</p> <p>(7) 自己点検・評価活動とその活用について</p> <p>(8) その他、学長の諮問について</p>
--

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 教育研究に関わる研修
- ・ 授業科目の教育目標の周知・徹底
- ・ カリキュラムの改善
- ・ シラバスに関連する対応
- ・ 授業評価
- ・ 教員の研究会、研修会の派遣

b 実施方法

① 教育研究に関わる研修

FD・SD委員会は、各教職員が大学院の教育研究上の目的及び養成する人材像について共通認識を持つため、研修の機会を設ける。

② 授業科目の教育目標の周知・徹底

各授業科目の教育目標及び位置付け、他の授業科目との関連（授業内容及び授業範囲）について、十分に討議・連携を踏まえ、各教員が担当する授業の内容・方法等を決定する。

③ カリキュラムの改善

教育内容の向上を図るために、継続的にカリキュラムの改善を行う。すなわち、体系的に学修できる必修科目の検討等、カリキュラムの改善を図る。その際には、学生による授業評価と教員による自己評価、動物看護をめぐる国内外の教育研究の動向を考慮したカリキュラムの改善を目指す。

④ シラバスに関連する対応

シラバスの内容の充実・改善を図るために、研究科委員会において、担当科目の内容、教育目標、成績評価基準、教科書及び参考書の指定等のシラバスの記載項目並びに記載方法等を検討する。

⑤ 授業評価

学期の最終授業時に各科目の授業評価アンケートを行い、授業の改善資料とする。このアンケート結果は自己点検・評価の際にも活用する。

⑥ 教員の研究会、研修会への派遣

他大学並びに諸団体が開催するFD関連の研究会、研修会等へ教員を派遣する。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

・FD委員会が主体となり、令和3（2021）年度は以下のセミナー（全4回）を実施した。

第1回 令和3年10月25日：「新型コロナウイルスの感染予防、並びにワクチン接種の必要性（有用性）への理解」
講師：北里大学医学部微生物学教授 林 俊治（教職員対象）

第2回 令和3年12月6日：「ハラスメント、学生同士のいじめ対応等について」
講師：大原法律事務所弁護士 平岩 正史、齊藤 圭太、辻田 寛人（教職員対象）

第3回 令和4年2月7日：「情報管理（情報セキュリティ、個人情報管理、知的財産管理等、外部機関との共同開発、SNS、インターネット、外部機関対応等）」
講師：大原法律事務所弁護士 平岩 正史、齊藤 圭太、辻田 寛人（教職員対象）

第4回 令和4年3月25日：「大学の国際化について」
講師：ヤマザキ動物看護大学客員教授 黄鴻堅（教職員対象）

各回、本学専任教員の3/4以上が出席した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 授業評価アンケートを前期・後期に実施し、集計結果を教員にフィードバックしている。
- ・ また、各科目責任者が「授業改善に関する報告書」を提出し、授業改善に努めている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

令和3（2021）年度は、前期・後期の各授業最終回終了後に、オンラインによる授業評価アンケートを実施した。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・ 学長、FD委員会委員長には、全科目の授業評価アンケート結果をファイリングし公開した。
- ・ 科目担当教員には、担当科目全ての授業評価アンケート結果を公開した。
- ・ 学生には、全科目の授業評価アンケート結果を綴ったファイルを図書館に設置し、事由に閲覧できるように公開した。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

該当なし

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本大学院学則第2条に基づき、その教育研究の水準の向上を図るために、自己点検・評価を行う。教育研究目標を明確にし、目標を達成するための教育研究等の活動を行うとともに、教育研究等の活動状況や目標達成状況を適確に把握し、それらの結果を十分に踏まえ、文部科学大臣の認証を受けた機関による認証評価を受け、教育研究等の活動の改善に努める。
自己点検・評価の結果については、報告書にまとめ公表する。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和5年8月 公表予定

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（令和5年8月を予定）

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

・ヤマザキ動物看護大学は、公益財団法人日本高等教育評価機構において、令和3（2021）年度に大学機関別認証評価を受審し、その結果、同機構が定める大学評価基準を満たしていることが認定された。大学院は令和3年4月に開設しており、次回の受審については、大学と同時に受審する。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

≪ aで公表「無」の場合≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。